

令和6年1月

宮城県内山岳遭難統計

【過去5年分（令和元年～令和5年）】

宮城県警察本部地域部地域課

1 宮城県内の発生状況

令和5年中の山岳遭難は

- ・ 発生件数 20件（前年対比－10件）
- ・ 遭難者 22人（前年対比－11人）
 - うち死者・行方不明者 1人（前年対比－1人）
 - 負傷者 6人（前年対比－9人）
 - 無事救出 15人（前年対比±0人）

であった。

2 過去5年間における山岳遭難の特徴

(1) 月別

「10月」が34件で全体の約21.9%と最多で、次いで「5月」が31件で全体の20%を占めている。

(2) 年齢層別

遭難者のうち60歳以上が109人と全体の64.5%を占め、その中でも70歳代が48人と全体の28.4%を占め最多となった。

(3) 山域・山系別の発生状況

山域・山系別にみると、最も多いのが「船形連峰」36件で、次いで「蔵王連峰」22件であった。

(4) 目的・態様別

○ 目的別にみると「登山等」が93件で全体の60%と最も多く、次いで「山菜・茸採り」が47件で全体の30.3%を占めている。

○ 山域・山系別の目的

- ・ 「登山等」の遭難は、「船形連峰」で30件と最も多く、次いで「蔵王連峰」22件、「栗駒山系」15件で仙台市近郊や全国的にも知名度の高い県内主要山系での発生傾向が高い。
- ・ 「山菜・茸採り」の遭難は、「その他」で40件と最も多く、低山（里山）での発生傾向が高い。

○ 山域・山系別の態様

- ・ 態様別では、「道迷い」が65件で全体の41.9%で最も多く、次いで「滑落・転落」が32件で全体の20.6%を占めている。
- ・ 態様別を山域・山系別に分けると、「船形連峰」での「道迷い」が13件と最も多く、次いで「船形連峰」での「転倒」及び「栗駒山系」での「道迷い」がそれぞれ8件であった。

「山域・山系別」の詳細

「栗駒山系」～栗駒山、虚空蔵山等

「鬼首」～荒雄岳、禿岳等

「船形連峰」～船形山、白髪山、泉ヶ岳、大倉山等

「二口山塊」～大東岳、面白山、神室岳等

「蔵王連峰」～熊野岳、刈田岳、烏帽子岳、屏風岳、不忘山等

「その他」～阿武隈山地、その他里山、山林内等

表1 山岳遭難発生件数・遭難者数

表1-1 発生件数・遭難者数

	発生件数 (件)	遭難者数 (人)	遭難者数 (人)			
			死者	行方不明者	負傷者	無事救出
令和5年	20	22	1	0	6	15
令和4年	30	33	2	1	15	15
令和3年	42	44	6	1	19	18
令和2年	38	45	7	0	9	29
令和元年 (平成31年)	25	25	2	0	10	13
合計	155	169	18	2	59	90

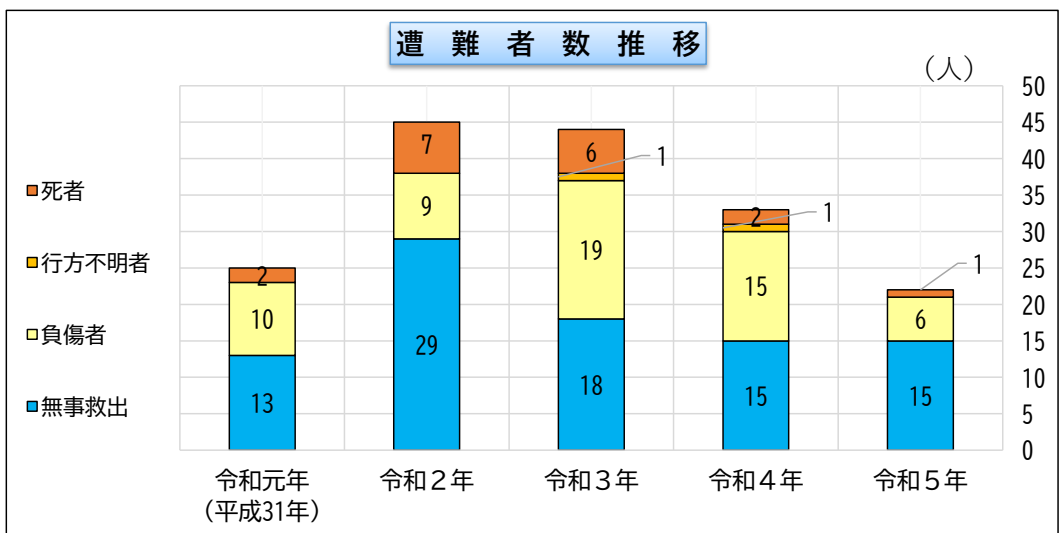
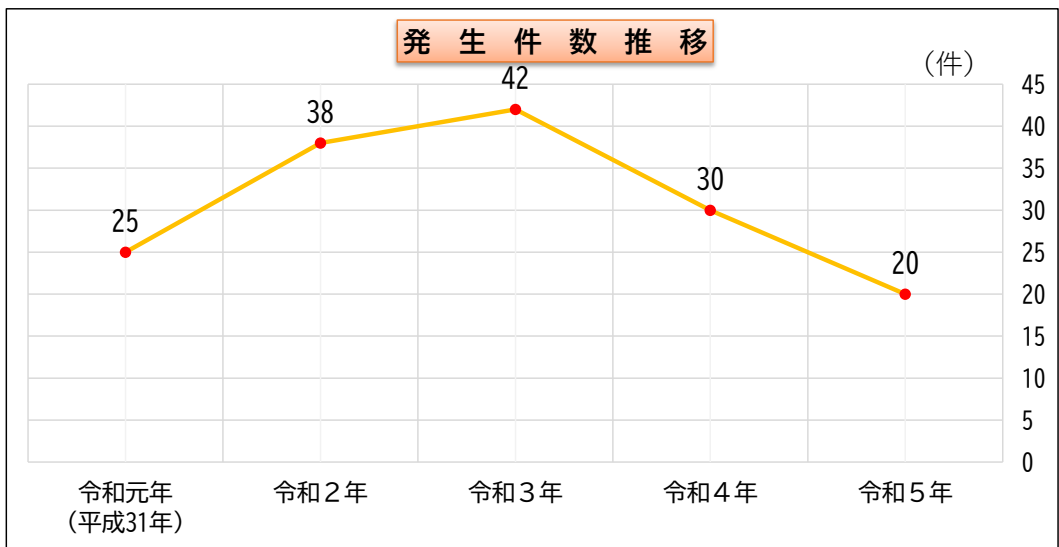


表1-2 月別

(件)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
令和5年	1	3	0	1	1	0	2	2	2	5	1	2	20
令和4年	3	0	2	2	6	4	3	0	8	1	1	0	30
令和3年	1	1	2	4	6	6	3	3	1	12	2	1	42
令和2年	0	2	0	1	13	2	1	6	1	9	3	0	38
令和元年 (平成31年)	1	0	1	3	5	4	0	2	1	7	0	1	25
合計	6	6	5	11	31	16	9	13	13	34	7	4	155
平均	1.2	1.2	1.0	2.2	6.2	3.2	1.8	2.6	2.6	6.8	1.4	0.8	31.0

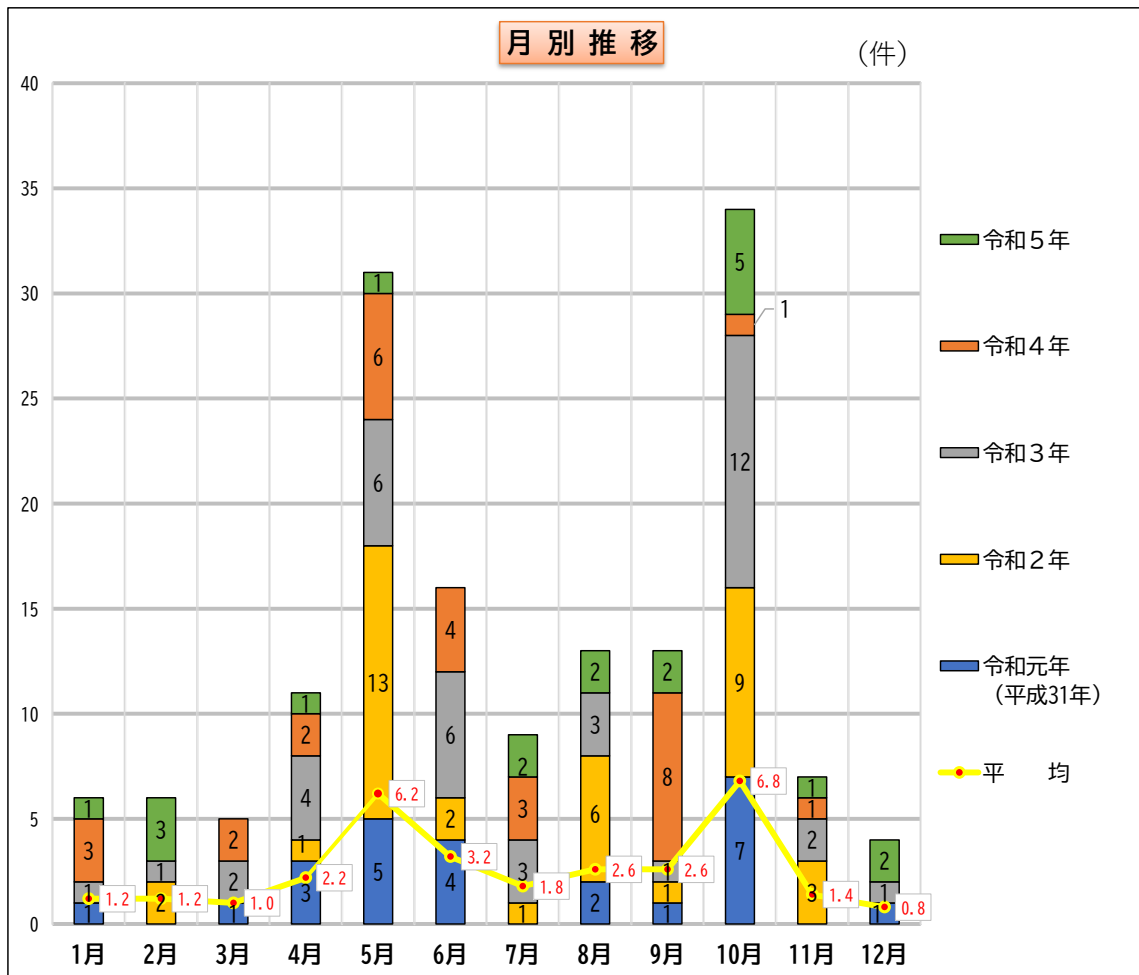


表1-3 年齢層別

(人)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
令和5年	2	3	2	3	1	2	6	3	22
令和4年	2	0	1	3	5	10	9	3	33
令和3年	4	2	3	2	3	11	12	7	44
令和2年	3	4	4	1	3	7	15	8	45
令和元年 (平成31年)	0	1	2	2	4	6	6	4	25
合計	11	10	12	11	16	36	48	25	169
平均	2.2	2.0	2.4	2.2	3.2	7.2	9.6	5.0	33.8

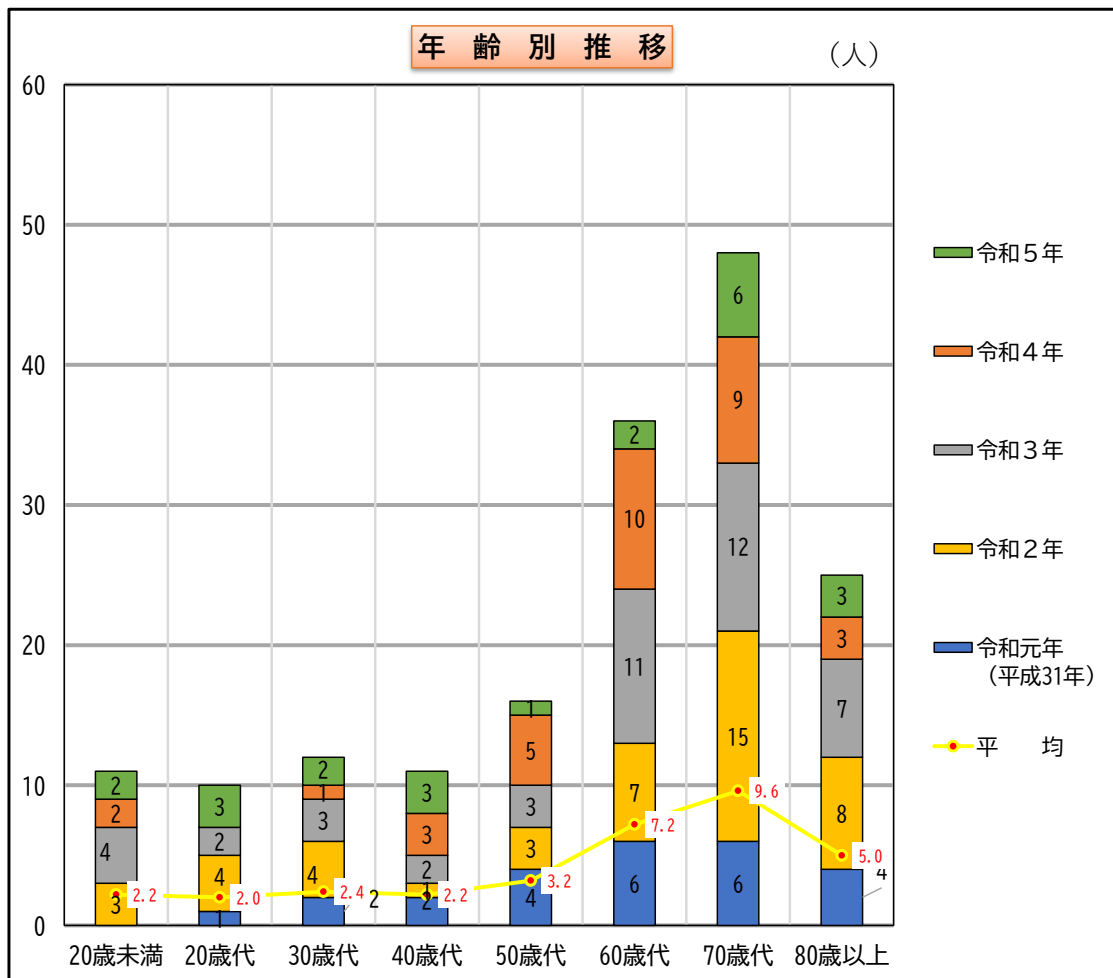


表2 山域・山系別

表2-1 発生件数・遭難者数等（令和元年～令和5年）

	発生件数 (件)	遭難者数 (人)				
		死者	行方不明者	負傷者	無事救出	
栗駒山系	16	18	0	0	5	13
鬼首周辺	2	2	0	0	1	1
船形連峰	36	39	3	2	13	21
二口山塊	16	17	1	0	11	5
蔵王連峰	22	23	3	0	10	10
その他	63	70	11	0	19	40
合計	155	169	18	2	59	90

【令和元年～令和5年】

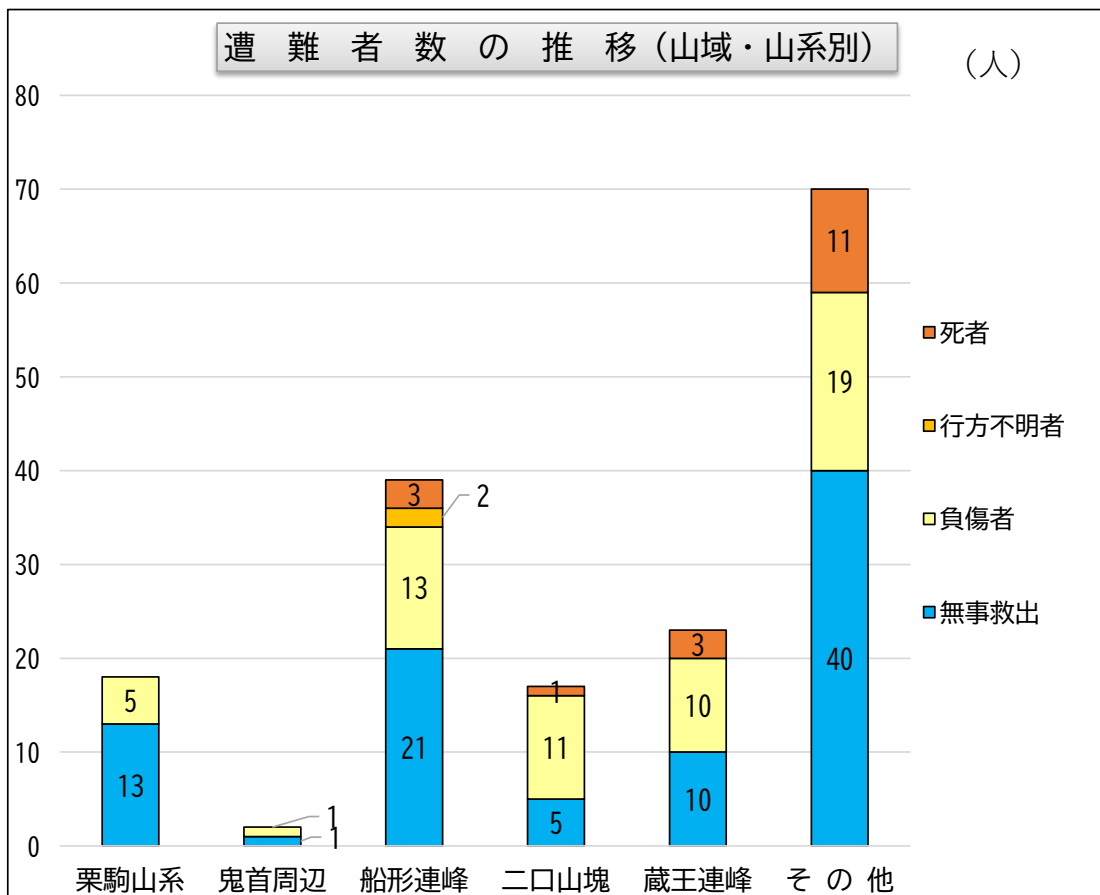


表2-2 目的別（令和元年～令和5年） (件)

	登山等	山菜・茸採り	その他	計
栗駒山系	15	1	0	16
鬼首周辺	1	1	0	2
船形連峰	30	4	2	36
二口山塊	12	1	3	16
蔵王連峰	22	0	0	22
その他	13	40	10	63
合計	93	47	15	155

※ 「登山等」には、ハイキングや沢登り、岩登りも含む

【令和元年～令和5年】

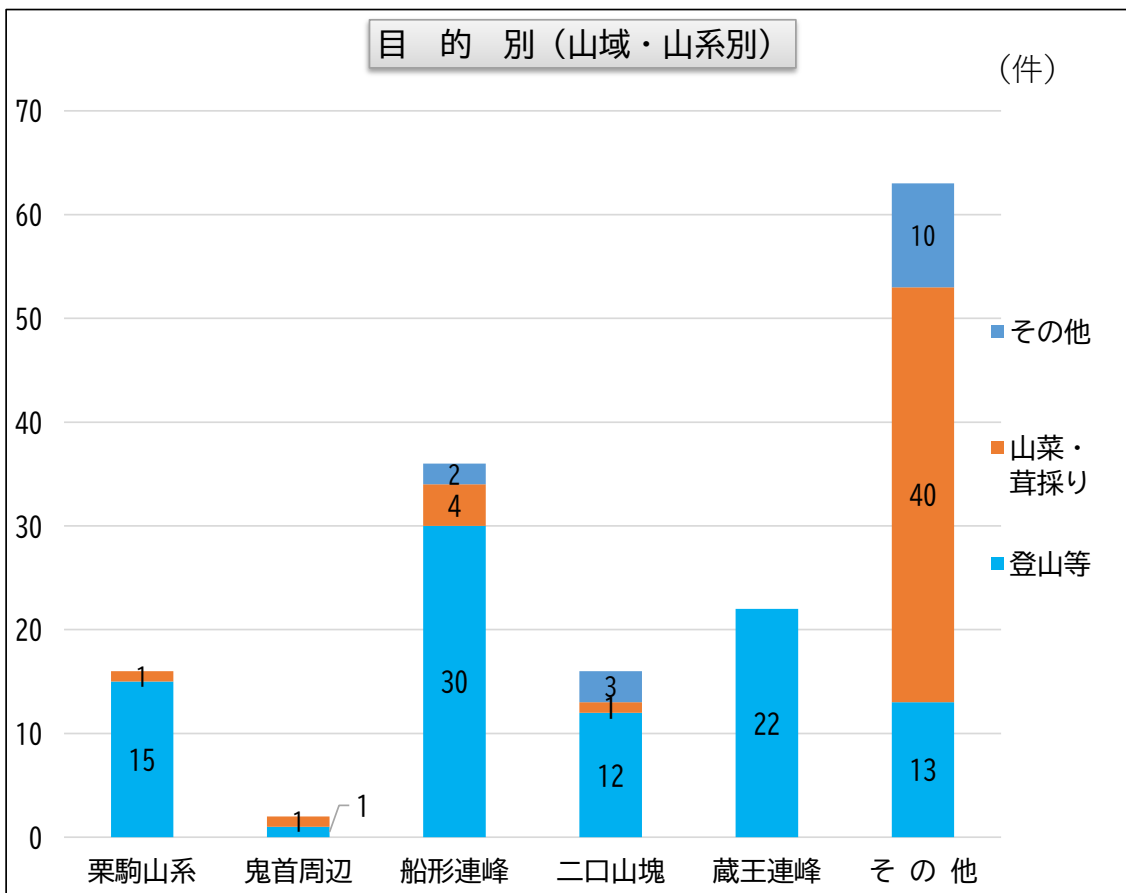


表2-3 態様別（令和元年～令和5年）

(件)

	道迷い	滑落・転落	転倒	病気・疲労	その他	計
栗駒山系	8	1	3	3	1	16
鬼首周辺	1	1	0	0	0	2
船形連峰	13	5	8	6	4	36
二口山塊	3	7	3	2	1	16
蔵王連峰	5	5	4	5	3	22
その他	35	13	5	5	5	63
合計	65	32	23	21	14	155

【令和元年～令和5年】

